

## 厚田学園開校準備委員会 第12回会議【質疑要旨】

- ・日時 令和元年5月29日(水) 18:30～19:46
- ・会場 厚田保健センター 1階多目的ホール
- ・出席者 委員12名
  - ・保護者： 小笠原英史(厚田小・厚田中PTA会長)  
角田由希(厚田保育園父母の会)  
阿部 保(聚富小中PTA会長)
  - ・学校関係者： 石橋浩明(厚田小校長)  
丸山真嗣典(厚田中校長)
  - ・学校支援推進員： 渡邊教円(厚田小)  
小林晴美(厚田中)
  - ・地域の教育関係者： 早坂伊佐雄(前・厚田中PTA会長)  
渡部賢二(旧・望来小学校支援推進員)
  - ・厚田区地域協議会： 築田敏彦(厚田区地域協議会会長)
  - ・学識経験者： 佐藤勝彦(委員長：札幌大学名誉教授)〔委員長〕  
前田賢次(北海道教育大学札幌校准教授・教育方法学)〔副委員長〕

教育課程部会 鬼塚建次(厚田小教頭)、杉原大樹(聚富小教頭)、  
(学校管理職) 野口俊之(厚田中教頭)、北村 剛(聚富中教頭)

### 事務局

#### 〔市教委〕

佐々木生涯学習部長、佐藤教育指導担当次長、東社会教育担当次長(市民図書館長)、  
安崎総務企画課長、佐々木学校教育課長、山田指導担当参事、伊藤社会教育課長、  
相原厚田生涯学習課長、松永総務企画課主幹、古屋総務企画担当主査、  
栗谷厚田生涯学習課主査、西山厚田生涯学習課主査

#### 〔市保健福祉部〕

宮厚田保育園長

※欠席 1名(青山 司委員・聚富小中校長)

※傍聴者3名

- 委員長あいさつ(佐藤委員長)の後、会議次第により、次のとおり議事が進められた。

## ● 新委員の紹介

事務局（松永総務企画課主幹）より、新年度における各学校のPTA等の役員改選、教職員の人事異動に伴う委員の変更について報告した。

- ・小笠原英史 委員 → 所属団体・機関・役職等について、今年度から厚田小と厚田中のPTA組織が合同となり、「厚田中学校PTA会長」が加わった。
- ・丸山真嗣典 委員 → 厚田中学校校長着任により新たに委嘱する。
- ・早坂伊佐雄 委員 → 従前は「保護者（厚田中学校PTA会長）」の推薦区分で委嘱していたが、新年度のPTA役員改選による退任後においても、これまでの協議経過や当委員会の継続性等の観点から、「地域の教育関係者」の推薦区分として引き続き委嘱する。
- ・渡部賢二 委員 → 従前は「学校支援推進員（望来小学校）」の推薦区分で委嘱していたが、同校が閉校した後においても、これまでの協議経過や当委員会の継続性等の観点から、「地域の教育関係者」の推薦区分として引き続き委嘱する。

引き続き、事務局より4月の市人事異動等により、本会議から新たに出席する委員として、東社会教育担当次長、山田指導担当参事、伊藤社会教育課長、栗谷厚田生涯学習課主査、及び市保健福祉部の宮厚田保育園長を紹介した。

## ● 校歌の制作について

- ・事務局案として、「作詞・作曲の人選について、この地域に縁のある方や、音楽・芸術、創作活動の経験、経歴のある教育関係者等に依頼する。」ことを提示し、作詞の依頼者として、伊藤 潮 氏（厚田小学校第38代校長：平成8～10年度、厚田小学校卒業生）、作曲の依頼者として、高橋たい子 氏（厚田小学校第44代校長：平成24～26年度、旧望来中学校教諭、花川中学校の校歌作曲）をそれぞれ提案した。
- ・伊藤氏は、厚田で生まれ育ち、教員になられて母校・厚田小の校長として着任されたという経歴と、定年退職後に道内約200校の校歌に関する調査研究をされ、それに裏打ちされた「校歌の意義」や「校歌そのものに対する思い入れ」、「ふるさと厚田に対する思い入れ」という点において、厚田学園の校歌の作詞を依頼するに一番ふさわしい方であると判断した。
- ・高橋氏は、音楽専科の元教員として、旧望来小や厚田小（校長）として勤務され、厚田の自然や風土等を熟知され、それらを校歌の曲調に表現できる一番ふさわしい方であると判断した。

以上について、出席委員からの異議がないことを確認し、事務局案のとおり決定した。

● 教育課程部会からの報告〔石橋委員：厚田小学校校長より〕

・本題の前に、新年度から本年3月に閉校した旧望来小の児童が加わって、新しい学校生活が始まり、全員スクールバスで元気に登校していることをお伝えしたい。当初は違った環境の中で不安な部分もあったのではないかと推測するが、今日行われた運動会の総練習にもしっかり取り組んでいることを報告する。

・教育課程部会からの報告として、今年度1回目の全体会・分科会を5/7（火）に開催し、全体会ではコミュニティ・スクールの導入に向けて、制度的な部分を市教委（松永総務企画課主幹）から説明していただき、具体的な取組等については厚田中・丸山校長から前任の北広島市立西部中学校での活動事例等を紹介していただいた。それを受けた分科会では、今後、教職員がコミュニティ・スクールの導入に向けて、どのような動きをすればよいのかなど意見交換し、あらためて確認し合ったところである。

・また、先週5/24（金）に全道の小中一貫教育に関する研修会があり、厚田中・野口教頭と厚田小職員1名と一緒に参加した。極小規模で全校児童生徒6名のトマム学校（義務教育学校）の前校長と話す機会があり、小中併置校から義務教育学校へ移行した際の状況や関係業務等についてのご教示いただいた中で、現在の職員体制で開校準備を行っていくことについて決意を新たにしてきたところである。

・日課表について

令和2年度から、小学3年生以上の外国語（英語）が年間20時間増となる。これを充たすために教育課程の編成上、例えば行事の時間数を減らしたり、6時間授業日を増やしたり、石狩管内では通常の45分授業以外に60分授業を取り入れるといった方策を検討している学校もあることなどを踏まえ、厚田学園においてもどんな方法で20時間を生み出すか検討しており、できる限り早めに方向性を出さなければならない案件があることをご理解いただきたい。

・制服や指定ジャージ、入学式・卒業式等について

関係校の管理職で現在協議しており、道内の義務教育学校の取組や情報のほか、できる限り保護者や地域の方からの声、子供たちからの声を聴きながら、その方向性等を決めていきたい。

・4-3-2の学年ブロックについて

全ての教育活動で行われているわけではなく、例えば「3」のブロックの5～7年生において、制服を5年生から着ているわけではなく、部活動等についても現行の小・中学校と同じ括りとなる見通しである。

これらを踏まえ、厚田学園の学校経営方針や、子供たちに身につけさせたい資質・能力、目指す子どもの姿（像）に迫るために、学年別がいいのか、学年ブロック毎に動いた方がいいのかなどについて、今後検討していかねばならないと考えている。11月開催予定の保護者（地域）説明会までには、もう少しわかりやすいかたちで整理してお知らせできるよう取り組んでいく。

〔質疑応答など〕

(A委員)

外国語が年間 20 時間増えることの影響について、6 時間授業や 60 分授業にする等の方策が考えられるということだったが、厚田学園の開校と同じタイミングで新学習指導要領が導入されることにおいて、子供たちは新しい学校生活が始まることをすごく期待している中で、厚田学園が始まった途端に、例えば旅行的行事が無くなったり、縮小したりといったような、子供たちにとって残念なことにならないようにしてほしい。

(石橋委員：厚田小校長)

決して無くなるということではない。現実的には複式編制となるので、5・6年生の修学旅行や宿泊学習についても考えていかなければならないが、外国語の 20 時間増によって無くなることにはならないので、ご理解をいただきたい。

(→ A委員、了承)

(前田副委員長)

私は、三笠市で 7～8 年前からコミュニティ・スクール (CS) の運営委員会に携わっており、これまでの取組の中で課題となっていることがある。CS の制度を導入するにあたって、当初は学校が中心になりながら提案をして動いていくが、最終的には地域と一緒にあって CS の学校づくりを行っていくもの。学校だけで決めるのではなくて、地域主体の動き、取組となるように少しずつ移行していくのが理想像であり目指していくことなのだが、実は三笠市ではそのように移行できなくて困っている。今後、どのように移行していくかを考えていかなければならないが、そこが大きな課題だと思っている。

もう一点は、教育課程・カリキュラムや、学校経営方針等について説明されていくことになるが、なかなか理解されにくいということがあるので、本当に大変なことではあるが、できるだけイメージがしやすいような形で進められていくことを願っている。

(佐藤委員長)

各学校におかれては、日頃の学校運営に加えて、統合準備に関わる様々な連絡調整などをされていて、小中一貫教育と CS を同時に進めるために本当に大変な作業をしていただいていることに感謝している。今後も引き続き、来年の開校に向けて準備を進めていただくようお願いしたい。

- 開校までのスケジュールについて
- コミュニティ・スクール (学校運営協議会制度) について

事務局 (松永総務企画課主幹) より、資料に基づき説明した。

#### [開校までのスケジュール]

- ・今年度の開校準備委員会（会議）を、本日のほか、7月、9月、10月下旬、12月、開校前の3月の計6回開催することを予定している。
- ・関係校の閉校記念事業（式典等）は、10/26 厚田小・厚田中（合同）、11/10 聚富小中でそれぞれ開催され、各校では閉校記念誌の制作や、当日の式典・お別れの会などのプログラムの企画準備が進められている。
- ・事務局では、11/18の週に「保護者（地域）説明会」を開催し、例えばスクールバスの運行計画や義務教育学校としての教育活動や学校生活（4・3・2の学年ブロック、制服や指定ジャージ、チャイム、新校舎1階に配置する厚田保育園のこと等）についてお示しできるようにしたいと考えている。特に、スクールバスについては、聚富小中学校の児童生徒の通学先を考慮して、昨年11月に実施した第1回通学先意向調査と、年内にもう一回行う同調査の結果を反映できるよう、これから秋までに来年4月開校時の運行計画案を定めていく。
- ・先週、市長と市議会議員選挙があり、新しい体制による市議会が7月中に行われる予定となっており、開校準備に係る予算審議が行われることになっている。

#### [コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）]

- ・現在、石狩管内では石狩市を除いた全ての市町村で、必ず1校以上は導入されており、江別・当別・新篠津では全小中学校で、千歳・恵庭・北広島市についてもそれぞれ数校が導入されている。石狩市は、この石狩八幡小学校と厚田学園の、来年新たに開校する2校で、市内で先行して導入した後、再来年の2021（令和3）年度には、その他の全校で導入することとしている。
- ・事務局では、「どのようにコミュニティ・スクールの機運を高めていくか、多くの方に理解をしていただくか」が、とても大きなテーマ、課題であると受け止めている。この準備委員会においても、今日だけではなく、今後も引き続き、制度の理解や具体的な協議をさせていただきながら、厚田学園がより地域に愛され、地域の宝である子ども達が普段生活し、活動する「学校」を、地域がどのように支援し、応援していこうかといったようなことをテーマに、少しずつ具体的な取組が展開できるような下地づくりをしていきたいと思っている。

（以下、配布資料「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の仕組み」に基づき、学校運営協議会の主な役割や、市内で実施している学校支援地域本部の取組事例等を説明した。）

- ・学校運営協議会の委員（資料中のイラストで描かれている5人）は、校長が推薦、選出をして、校長が掲げる学校経営の基本方針等に賛同している方であるが、まだ厚田学園の学校長は決まっていない。
- ・事務局から提案をさせていただきたいのは、来年4月の開校を見据えて、現在の関係校の各校長の意向を踏まえて、今、各校の学校運営に協力していただいている方をそれぞれ選んでいただき、「学校運営協議会・設立準備会」として、人数的にももう少し絞った構成メンバーで、厚田学園のコミュニティ・スクールの構想づくりをさせていただきたいということである。そして、できれば次回の会議を予定している7月下旬までに第1回の設立準備会を開催し、その内容については随時、この開校準備委員会で報告させていただきたい。

〔質疑応答〕

(B委員)

学校運営協議会（CS）の設立準備会の設置について提案があったが、現場の先生方の負担が大きくなるのではないかと感じた。準備会のメンバーの選び方や、校長から依頼されて選ばれた方がどうして自分なのかといったことが分かるようにしてほしいし、選ばれる方の地区のバランス等も考慮して、メンバーを決めてほしい。校長先生に任せてしまっているのかという思いもあるがいかがか。

(前田副委員長)

三笠市でも同じような意見が出されたことがあって、初めはこの開校準備委員と、CSの委員（学校運営協議会委員）の両方を兼ねて横滑りするような形で進められた。厚田と同じように、いくつかの学校が統廃合したので、それぞれの地域をお互いに把握できるようにするのが難しかったが、走りながら（会議や色々な取組をしながら）、そこを補っていったと思っている。都市部では人材を探しやすいが、このような地域は住民の高齢化の問題があって難しい。先ほど事務局から「できることを、できる範囲で、できるところから」という話があったが、石狩らしい、厚田らしいやり方があると思う。

もう一点は、地域や委員の皆さんに、どういう形でCSが動いていくのかというイメージを持ってもらうのが難しいと思うので、最初は手探りで始めていながら、この会議の委員の皆さんもその都度、CSの制度や内容について理解を深めながら、意見や疑問などもどんどん出し合っていく中で、色々な取組のアイデアが生まれてくると思う。

(佐藤委員長)

現在、全国でCSを導入している学校も、それぞれ様々な悩みや課題を抱えながら進めていると思う。CSは、学校と地域の良好な信頼関係をつくるということが基本なので、3人の学校長に適任者を推薦していただきたいと思う。CSと小中一貫教育を同時に進める校長先生や学校管理職の先生にはご負担を強いてしまうことになるが、トライ&エラーを繰り返すことで新しい学校づくりを行っていくという、ちょっと気長なスタンスで臨んでいいのではないかと考えている。今まで経験のない新しいことを私達も学んでいくわけだから、どうしても時間はかかるということもご理解をいただいて、事務局から提案のあったように、それぞれの地域の学校の校長先生に人選をしていただき、地域に反映できる形で進められればと思う。(→ B委員、了承)

(丸山委員：厚田中校長)

私は、前任校の北広島市立西部中学校でCSに取り組んできたが、厚田学園でのCS導入にあたっては、やはり地域性が違うので、西部中とは若干違う進め方であればならないかなと思っている。厚田区内の各校に学校支援推進員がいらっしゃるのでも、まずは同推進員の方々から選出させていただくほかに、学識経験者や市教委にも入っていただきながら準備会を立ち上げたいと考えており、CSの組織や目的、めざす子ども像等について膝を付き合わせて議論しながら、厚田学園のCS導入に

つなげていきたい。

(石橋委員：厚田小校長)

全国のCSでは、ゼロからスタートしているところもあれば、学校支援推進員や学校関係者評価委員をベースにしているところ、事務局から説明のあった学校支援地域本部事業からスタートしたところなど、進め方は様々であると思っている。これまで厚田では、学校支援地域本部事業のような取組がないので、丸山委員（厚田中校長）からの説明のあったように、各校の学校支援推進員の方々に準備会のメンバーになっていただくことを想定しており、バランスがとれると思っているので、事務局から提案のあった内容で進めさせていただきたいと考えている。

(佐藤委員長)

今、お二人の校長先生からお話いただき、事務局から提案のあった「CS（学校運営協議会）設立準備会の設置」について、委員の皆さんからの了承を得たいと思うがいかがか。

(→ 各委員より異議は無く、了承された。)

## ● その他①

校歌の制作について〔追加質疑〕

(A委員)

開校までのスケジュールの中で、12月に開催予定の開校準備委員会（第16回）において、「校歌完成報告」となっているが、それまでに中間の制作状況や、どの時点で誰が校歌の原曲について了承するという判断を行うのか伺いたい。

(佐々木生涯学習部長)

事務局としては、12月に校歌の最終版のお披露目をする予定としており、その前の段階でこの開校準備委員会にご報告できるタイミングがあるかどうかについては、現時点ではっきり申し上げられないが、本日、事務局案として、作詞と作曲のお二人のお名前を出して依頼するということは、その方のセンスや実績を信じて一任したいということをご了解いただきたい。例えば、先に歌詞が出来上がって、これから曲を付けていくというタイミングがあれば、この準備委員会で報告することがあるかもしれないというふうに思っている。(→ A委員、了承)

## ● その他②

事務局より、4月の学校教職員の人事異動で、聚富小の杉原大樹教頭が着任されたことを報告した。(杉原教頭より自己紹介)

● その他③

校章デザインの最終決定について、事務局（松永総務企画課主幹）より報告した。

・前回（2/19）の会議で、66 作品の中から、山形県在住の菅野 薫（すがの かおる）さんの作品を選出していただいた。翌日、ご本人に連絡し、開校準備委員会の投票で最上位に選ばれたことの報告と、著作権等への抵触の危惧や、第三者から類似・模倣といった指摘を受けることはないかどうかなどについて伝えたところ、本人からは選考されたことの謝意と、デザインが菅野氏本人のオリジナルの作品であることを確認した。

その後、事務局においてインターネット等で類似のデザインがあるかどうかについて再調査したほか、校章の基本デザインとして決定したことについて、市のホームページへの公表や、北海道新聞（石狩地方版）への記事掲載のほか、今回、全国から募集する取組の一つとして、デザイン募集の記事掲載をした全国誌「公募ガイド4月号」においても、校章デザイン決定の告知をした。

その結果、今日まで、当初危惧していた、著作権関連に関わる第三者からの申し出や苦情等は寄せられていないことを報告する。

● 次回（第13回会議）の日程について

各委員の都合等を踏まえ、事務局より「7月26日（金）18時30分～」の日程を提案し、了承決定した。

閉 会

会議録署名

上記会議の経過を記録し、その相違ないことを証するため、ここに署名します。

令和元年7月26日

厚田学園開校準備委員会

委員長 佐藤 勝彦